

科目名		3DインテリアI				
担当教員		木戸 久美子		実務授業の有無	○	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方		<p>コーディネーターの実務に必要な、プレゼンテーションの必要性と技法を学び、3Dインテリアデザイナーの基本操作を習得しコンペ作品等に対応する実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. プレゼンボードの制作を中心に見せ方、描き方学び、コンペに活かす作品を作る。 3. 条件に則したプレゼンツールの進め方の基本を理解する。 				
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーターの業務においてプレゼンテーションの重要性を理解します。3Dインテリアデザイナーの基本操作を学びながら、インテリアコーディネートの基本知識とセンスを身に付け、訴求力のあるプレゼンテーションボードをつくるテクニックを学びます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		超図解で全部わかる インテリアデザイン入門 3DインテリアデザイナーNeo3				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ソフトセットアップ ①プログラムのセットアップ及び、ライセンス認証の実行 ②操作画面・機能紹介			方法：機能と操作方法について解説する。演習課題に取り組み基本操作を身に付ける。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。		
2	インテリアエレメントについて講義 ①主な内装材の種類について学ぶ。 ②家具の配置、照明計画、窓装飾について学ぶ。*家具やエレメント配置の際の、種類や特徴・機能、配置寸法の知識を学ぶ。			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。		
3	基本操作 ①演習1：空間モデリング（マンション） ・平面図から空間を作成する。 ・間取りの作成・カーテン・家具住宅設備の配置			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。		
4	壁編集／柱・梁 ①開口部や腰壁、 ②R壁、 ③ニッチなど壁装飾の作成			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。		
5	床／天井編集 ①スロープ、ステッチなどの床編集、 ②コーニス、コーブ、アーチ照明、 ③勾配・折り上げ天井の作成			方法：作成・操作方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本操作が理解できている。 準備学習：演習課題に取り組み、手順を練習する。		
6	JAPANTECHインテリアデザインコンペ2021 参加 ①テーマを理解し、作品の核となるキーワードを見つける。 ②作品のコンセプトを考え、デザインにどう反映するか考える。 ③付帯条件を理解し、空間の全体イメージを決める。 ④作品で使用する、インテリアエレメント（要素）を決める。			方法：作品制作を通して、オリジナル作品制作を行う。 発表までの工程やクオリティ管理を行う。 目標：工程、精度とともに、入賞を目的とする。 準備：配布プリント		
7	コンペ作品発表 ①プレゼンシートを完成 ②プレゼン手法、評価について学ぶ。			プレゼンシートを完成させ、コンセプトや内容について発表し、講評→解説		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題	取組姿勢			3DインテリアデザイナーNeo3の基本操作を学びながら、インテリアエレメントやプレゼンテーション技法について幅広く学ぶ。コンペに挑戦することで、自ら学び表現する力を習得する。トレンドの分析、配置計画、色彩計画を学び、訴求力のあるプレゼンボード制作を目指す。個人作業が主体となり、レベル差が出やすい内容であるため、適宜個人指導を行い技術の定着を図る。		
70 %	30 %	%	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		インテリアコーディネーターの業務における歴20年				